

四賀ガルテナーの楽しみ

ガルテンは何してん!?

発芽に感動し、信州の人の優しさに 元気をもらおう日々

坊主山クラインガルテン 2015号 内田 清さん



東京都中野区の自宅マンションから通って5年目の内田清さん(66歳)。作物のほとんどを種から育て、また種を採り、繰り返し育てています。ネットで大切そうにくるんだネギ坊主や、ひもでゆるく束ねられたニンジン、の白い花を指差し、「種がこぼれ落ちないようにこうするんですよ」と、笑顔で話します。

「農家の方にももらったのが始まりのウリメロンは、毎年すごく美味しく、食べた後の種を植えます。サトイモは収穫した芋を種芋にして水栽培で苗を育てる。イチゴは種をピンセットで取ったんですよ。種が土を盛り上げて発芽し、双葉、本

葉へと成長する様子には、買った種や苗では味わえない感動を覚えます」。

他にも「糸にして染色したい」と育てているコットンや、入居の年に植えた柿や梅の木も順調に成長し、まだまだ楽しみは広がりに、深まっていきそうです。また、「竹取り」などクラインガルテンの恒例イベントも楽しんでいる内田さんは、竹で熊手やほうき、雨どいも作りました。山菜採りでは「北アルプスの圧倒的な景色と出合い最高だった」と目を輝かせます。

内田さんは、勤務地として過ごした四国、北陸、中部地方などでの忙しい日々を振り返り、「あのころから『リタイアしたら、人との繋がりを大切にしながら、土のそばで暮らしたい』と考えていました。松本市に暮らしたこともあって北アルプスの美しさも知っていましたし、キャッチフレーズの



「田舎の親戚」も気に入り、ここに決めました」とほほ笑みます。

金沢市に赴任中、健康づくりにと始めたマラソンは今も続けていて、「大町アルプスマラソン」には2010年から参加。ハーフルクスで毎年完走しています。今年も既にエントリー済みで、コースを決めて練習中。「小学生から『フアイトー』と声援を、知らない人からも『おはよう』『こんにちわ』とあいさつをもらい元気が出ます」と嬉しそうです。

「みんな、いい人ばかり」と内田さん。庭にいくつか置かれた座り心地抜群の丸太椅子は、通りがかりにももらったものだといいます。時折、「ここでのエピソードを『坊主山クラインガルテンだより』として写真入りで記録している内田さん。これからも心通う日々が続けられるでしょう。」

